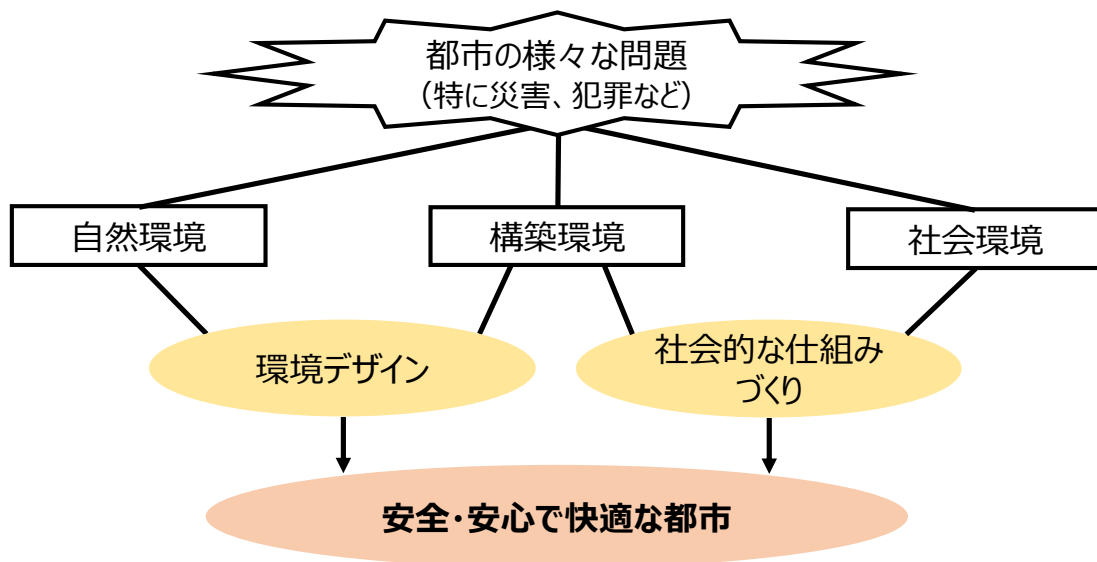


ティーチング・ポートフォリオ



大学名 東京都市大学
所属 都市生活学部都市生活学科
名前 諫川 輝之
作成日 2021年10月7日

1. 責務

都市生活学部都市生活学科に所属し、都市の防災・減災や環境心理学に関連した教育・研究活動を行っている。主な担当科目は、まちの防災（2年選択）、都市と交通（3年選択必修）、グラフィックデザイン演習（1年必修）、コンピュータ演習（1年必修）、都市デジタルシミュレーション（1）（1年必修）、都市プランニング特論（大学院）である。また、都市安全環境研究室を主宰し、ゼミ生の研究指導（3年次：プロジェクト演習、4年次：卒業研究）やキャリア支援を行っている。このほか、1・2年次クラス担任（各10名程度）や学部の教務委員として主に時間割編成を担当している。

2. 理念

私の理念は以下の2つである。

1. 都市生活に関する身近な課題を見つけ、解決できる人材を育てる

都市生活学は身近な空間や商品、サービスを対象とする学問であり、その中でも防災や安全・安心はあらゆる人に関係する身近なテーマである。そこで、身近な生活のなかで課題を見つけ、解決できる人材を育てたい。

2. 様々な人と協力して、新しいアイデアを提案できる人材を育てる

都市の問題は一人の頭だけでは解決できず、様々な立場の人との協力が不可欠である。したがって、各自の得意なことを活かしつつ、他者と協力して新しいアイデアを生み出し提案できる人材を育てたい。

3. 方法

上記の理念を実現するために、以下の教育活動の方法・方針を取り入れている。

- ・ 授業で教えている内容が社会の何と関係あるのか意識させる
講義においては、質問やクイズを取り入れ、学生に考えさせる時間を設けている。また、毎年授業資料を更新し、直近で起こった自然災害や避難情報の更新、コロナをめぐるデマなど、時事的な話題と関連付けて専門用語を解説するように心がけている。
- ・ 自分が興味をもったことをやり抜く力を養う
研究指導においては、基本的に学生にやりたいテーマを持って来させ、それを掘り下げて具体的に実現可能な研究に落とし込むように指導している。
- ・ 現場に出て、自分の五感で確かめさせる
研究室のプロジェクト演習や卒業研究においては、フィールドワークを積極的に取り入れ、現場で感じたことを活かすように指導している。また、講義のレポートでも具体的な事例を対象にした課題を出し、現地に見に行くことを推奨している。

- ・ 新しいアイデアを提案する機会を用意する
プロジェクト演習においては、防災ゲームの開発や地域活性化策の提案など、グループで新しいアイデアを練り、提案させることを重視している。また、卒業研究においても、エビデンスに基づいた提案を含めることを推奨している。
- ・ 学生どうしで教え合い、高め合えるような環境を用意する
講義の中で提出した課題レポートの内容をグループ内で発表し、質問や感想を言い合う時間を設けている。進行役を決めたり、終了後印象に残ったことを報告させるなどして議論の活性化を図っている。

4. 成果

- ・ 卒業研究の内容を学生（卒業生）が日本建築学会大会にて発表した。
- ・ 卒業研究の内容をブラッシュアップした論文が日本建築学会技術報告集に掲載された。
- ・ プロジェクト演習で実施した南町田プロジェクトの発表会を行い、企業や自治体の方から関心を持っていただいた。
- ・ 授業評価アンケートで何人かの学生から「防災に興味をもった」という声があった。
- ・ コロナ禍での演習授業をオンラインで実施した際の工夫や気づきをまとめ、2020年度教育年報に掲載された。

5. 目標

<短期目標>

- ・ 対面およびハイブリッド型授業における効果的なグループ分けと発表方法の検討（2021年度中）
- ・ ゼミにおける学生間での意見交換の活性化（2021年度中）
- ・ 自分の授業動画を見直して、改善点を見つける（2021年度中）

<長期目標>

- ・ 自分で考えて行動できる学生を育てる
- ・ プロジェクト演習等におけるPBLの推進と共同研究等への進展

【添付資料】

- ・ 授業シラバス
- ・ 講義スライド
- ・ 収録動画
- ・ 授業評価アンケート